

広い心で

高田屋 嘉兵衛

江戸時代後期、*蝦夷地の漁場を開発したことから「北洋漁業の先駆者」と言われた商人、高田屋嘉兵衛。当時、航海の難所といわれた国後・択捉間の航路を発見するなど、幕府の役人も一



〔根室市 金刀毘羅神社〕

目置くほどの大きな考えと行動力をもっていた嘉兵衛は、日本とロシアの関係悪化を防いだ人物でもあります。

ことの起こりは一八一一年、貿易の申込みを断られたことに腹を立てた一部のロシア人が、日本の施設や船を焼き払ったことでした。その仕返しに、幕府の役人は、国後島に測量に来ていたロシア軍艦「ディアナ号」の艦長ゴローニンを捕らえてしまったのです。これが「ゴローニン事件」です。

副艦長のリコルドは、元々捕らえていた日本人と引き替えにゴローニンの釈放を訴えましたが、日本側からは何の反応もありません。そこで、リコルドは、日本の船を捕

らえて真相を聞き出そうと考え、翌年、偶然ディアナ号の近くを通りかかった嘉兵衛たちの船を捕らえました。

嘉兵衛を捕らえたリコルドは、まず片言の日本語でこう言いました。「この船には、捕らえた日本人を数名乗せている。ゴローニン艦長と交換したいのだが、役人はいつこうに応じてくれない。あなたが間に入って、交渉役をしてくれないか。」まじめな表情でリコルドの話聞いていた嘉兵衛は、「話は分かりました。捕らえられている日本人をすぐに解放してください。その代わりに、私が人質になります。」と答えました。嘉兵衛の申入れはすぐに聞き入れられました。

このとき、嘉兵衛は、覚悟を決めて家族に遺書を書き残しました。そこには「人質となった以上は、日本とロシアの和平のために努力したい。」と記されていました。

嘉兵衛は、ロシアと交渉するためには、まず、「ロシア語を習得せねば。」と考え、ロシア語を学びました。そして、習ったばかりのわずかな単語を並べて、リコルドに話しかけます。リコルドも嘉兵衛の話を理解しようと努めたので、二人の間で意思が通じ合うようになり、信頼関係が芽生えていきました。

リコルドは、次第に、嘉兵衛がきわめて優れた人物であることを感じとり、その人柄に魅せられていきました。嘉兵衛も、温厚で品格があり、礼儀をよくわきまえているリコルドに好感をもちました。



〔高田屋嘉兵衛とリコルド〕 画像提供 高田屋顕彰館

ゴローニン事件の解決へ向け、嘉兵衛とリコルドは、日夜議論を重ね、嘉兵衛は、リコルドへ一つの方策を提案しました。それは、「日本に対する乱暴は、一部のロシア人が勝手にやったことで、ロシア政府とは関係ない。」という釈明書を幕府に出して、ゴローニンを釈放させるというものでした。リコルドもまた、嘉兵衛の誠意に応えられるよう、自分にできる精一杯の努力を続けました。そして、港の氷がとけ始めた翌年の五月、ついに、嘉兵衛は、ロシア側からの釈明書と謝罪状を持って、日本に帰国することができたのです。

こうして、ゴローニン事件の解決は迅速に進みました。ゴローニンは釈放され、リコルドの乗った軍艦に引き取られました。別れの際、リコルドと乗組員は、嘉兵衛に感謝の気持ちを表すため、「タイショーウラー」を三唱し

ました。嘉兵衛たちも「ディアナ ウラー！」と張り裂けんばかりの声で叫びました。そして、ディアナ号は一か月後に無事、カムチャツカの港に戻ったのです。

一七六九	淡路国都志本村（現兵庫県）で生まれる
一七九二	ロシア使節フラクスマンが根室に来航（二十三歳）
一七九九	幕府の役人近藤重蔵の依頼により国後島から択捉島への航路を開く（三十歳）
一八一二	国後島で幕府がディアナ号の艦長のゴローニンら八名を捕らえる（四十二歳）
一八二二	高田屋の舘世丸が襲撃され嘉兵衛ら六名がカムチャツカに連行される（四十三歳）
一八二七	淡路国都志本村で死去する（五十八歳）

* 蝦夷地：現在の北海道

* 迅速：物事の進みぐあいなどが非常に速いこと

* タイショー：ロシア人が嘉兵衛を「大将」と敬った

呼び方

* ウラー：ロシア語で万歳の意味

* 三唱：三回くり返してとなえること